学校番号	２１５

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	(学)数学演習ＩＡ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	改訂版　ベーシックスタイル　数学演習Ｉ・A受験編（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学力＝①問題読解力×②解法暗記力×③論理的思考力×④計算の正確性×⑤処理スピード
であることを意識して、取り組んでください。繰り返し問題を解くことで力がついていくので、とにかく頑張る。わからないところは、調べる、聞きに行く。

2　学習の到達目標

数学ＩＡで学習した内容について
【知識及び技能】
　基礎的な知識の習得と技能の習熟を目標とする。
【思考力、判断力、表現力等】
　事象を数学的に考察する能力を養うことを目標とする。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を活用する態度を育てることを目標とする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	数学的知識を用いて事象を表現する良さを認識し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、積極的に評価・改善したりしようとする態度を身につけた。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章 数と式	展開・因数分解 絶対値 分母の有理化 1次不等式 ax>b の解 集合 必要条件・十分条件 条件の否定 逆・裏・対偶 背理法	a：問題集で扱った問題が確実に解けるようになった。 b：事象を数学的に考察して表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的 に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方ができるようになった。 c：既習分野の基本的な問題を確実に解答した。途中式も正確にかくように努力した。テスト後の振り返りを行い、理解を深めた。	定期考査	定期考査	課題提出、学習活動への参加態度
	第2章 2次関数	y=a(x−p)^2+q のグラフ y=ax^2+bx+c のグラフ 点、グラフの平行・対称移動 2 次関数の最大・最小 H≦x≦k における最大・最小 ax^2+bx+c=0 の解法 2 次不等式の解法 ax^2+bx+c=0 のグラフ				
	第３章 図形と計量	三角比の相互関係 直線の傾きと正接 正弦定理 余弦定理 三角形の角の大きさ、辺の長さ 三角形の辺と各の大小関係 三角形の面積				
	第４章 データの分析	平均値 最頻値 中央値 四分位数 箱ひげ図 分散・標準偏差 分散と平均値の関係式 データの相関 相関係数				

2学期	第５章 場合の数と確率	場合の数・順列 組合せ 同じものを含む順列 確率の基本性質 独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付き確率 確率の乗法定理 期待値				
	第６章 図形の性質	三角形の角の二等分線と比 三角形の外角の二等分線と比 三角形の重心・内心・外心・垂心 チェバの定理 メネラウスの定理 円に内接する四角形 接線の長さ 接線と弦の作る角 方べきの定理 オイラーの多面体定理				
	第７章 整数の性質	最大公約数と最小公倍数 余りによる整数の分類 連続する整数の積の性質 ユークリッドの互除法 1次不定方程式 n進法				
	まとめ問題	まとめ問題				
	入試問題演習	過去の入試問題の演習 センター試験の過去問演習				
学年末	入試問題演習	文系、看護系希望の生徒の受験する大学・専門学校の過去の入試問題の演習				

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度